

大人が持つ力②【支援者編】

異なる家庭背景に必要な支援とは？



ねらい

- 大人と子どもの構造的な力関係と、大人が持つ「力」「資源」について気づく。
- 家庭背景に関わらず、子どもの権利を保障するために、大人が「力」や「資源」を使って、どのように子どもを支援し連携できるのかを考える。

キーワード

子どもの権利とエンパワメント・子どもと大人の構造的な力関係・大人の責任・支援・連携

準備物

- ワークシート 1人1枚・資料 (P16~17) 1人1枚
- のり付きふせん紙(7~8cmの正方形) 1人10枚程度
- 模造紙 各グループ1枚・A3程度の白紙 各グループ1枚
- マーカーセット 各グループ1セット
- ホワイトボードと専用ペン(黒板も可)



参加人数 **10~30人**
大人が持つ力②は、主に支援者を対象に行うとよい。

プログラムの流れ

2分	① 導入	•ねらい、進め方
8分	② ウォーミングアップ	•グループ分け、自己紹介
5分	③ 大人の持つ「力」「資源」	•「力」「資源」の洗い出し
55分	④ 子どもをとりまく家庭背景	•子どもをとりまく家庭背景によって不足する「力」「資源」、不足を補う支援と連携
20分	⑤ まとめ	

時間


実際の詳細な手順

ポイント

スタート

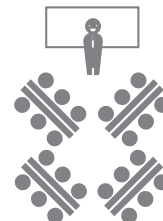
1 導入

1分

 今日は「子どもの権利と大人の責任」について考えます。かつて子どもだったはずのわたしたち大人は、その頃感じていた大人への安心感や理不尽な思いをいつの間にか忘れてしまっています。子どもは大人に対して圧倒的な弱者ですが、守られるべき存在であると同時に、権利の主体者でもあります。もっとも日常的な子どもの欲求に対して、大人が持つ「力」や「資源」とは何か。どのようにその「力」や「資源」を使うべきなのか、様々な家庭背景によって子どもの権利が保障し

会場の設営

- 会場は最初からグループ別に机とイスを並べておく。
- 【机とイスの配置例】



※会場の形によっては、ファシリテーターがやりやすいように適宜変更するとよい。

にくくなる時、どのような支援が必要なのか、皆さんと一緒に考えていきます。

1分

●ルールについて説明し、ホワイトボードの隅に板書する。

「参加・尊重・時間・守秘」

2分
経過

2 ウォーミングアップ

1分

●4～6人程度のグループに分ける。

7分



まず、グループ内で、自己紹介をします。名前、所属、「子どもの頃に親以外で印象に残っている大人とその理由について」を一言ずつ1人1分以内でお願いします。

10分
経過

3 大人が持つ「力」「資源」

説明1分 グループワーク4分



ここに8歳(小学2～3年生)の「子ども」がいるとします。大人がその「子ども」よりたくさん持っている「力」や「資源」にはどんなものがありますか。「力」や「資源」に関する言葉(例えば「経済力」)をふせん紙に書いてホワイトボードに貼る。一人ひとりふせん紙に書きながら、A3用紙に貼り、出された意見をグループで共有してください。

●ふせん紙10枚程度、ワークシートを各人へ配付する。

●拡大したシート1と模造紙1枚とマーカー1セットを各グループに配付する。

15分
経過

4 子どもをとりまく家庭背景

説明5分 グループワーク40分 説明10分

①資料説明

5分



では次に、配付した資料を見てください。

●資料を1人1枚配付する。

●資料の1番・2番を使って、「子どものエンパワメント」「子どもの権利条約」などについて説明する。

●ルールの説明についてP69を参考に伝えるとよい。

●他にルールを付け加えたい参加者がいたら付け加える。

●グループ分けする際、親しい人同士のグループにならないように配慮する。

●参加者が自分たちだけでグループになるのが難しそうだったら、ファシリテーターがグループ分けをする。

●まず、例としてファシリテーターが自分の話をする。その時に後のワークにつながる話題を提供すると効果的である。

●グループの人数などにばらつきがある場合、早く自己紹介が終わったグループにはフリーで話をしてもらう。

20分
経過

②権利保障のための「力」の行使

5分



書き出した「力」「資源」を使って、子どもが育つ権利を保障するために大人ができること、なすべきことをまず話し合ってください。時間は5分です。

5分



虐待は、英語で“abuse”^{アビュース}といい、力の^{らんよう}濫用・誤用という意味です。今、みなさんに考えてもらったように、大人は子どもの権利を保障するために多くの「力」を持っていますが、虐待とはその「力」を濫用することです。虐待には4つの種類があります。

●資料の3番を使って、虐待の種類や現状について説明する。

③異なる家庭背景と権利保障

10分



次に、シート2に書かれた1～6までの家庭背景を、グループに1つずつ振り分けます。各グループで、シート1に書かれた表を模造紙に書き写してください。

それぞれの状況で、不足するあるいはたくさん必要となる「力」「資源」は何ですか？先に書いたふせん紙から選んで模造紙に貼ってください。

20分



それぞれの状況で不足している、あるいはたくさん必要となる「力」や「資源」について、第三者にできること、なすべきことを考えてください。個人的なことでも、公的なことでも自由に話し合っ模造紙に書き出してください。

10分

④グループからの発表とまとめ



各グループから、発表してください。時間は30秒程度でまとめてお願いします。

5

まとめ

10分



これまでのワークで、気づいたこと、感じたことを話し合ってください。

10分



グループで話し合ったことで、全体で共有したいと思う気づきがある人は、ぜひみなさんに紹介し、共有してください。



子どもの育ちには、大人の関わりが必要です。大人が持つ「力」「資源」を濫用したり、誤用したり、または使わなかったりすることがないように、どのような家庭背景の子どもであっても、大人の連携によって子どもの権利を保障し、育ちを支援できる体制をつくっていくことが大切だと思います。

- ワークシートはグループ全員で見えやすいように拡大して配付するとよい。
- ホワイトボードにシート1の表を書きうつしながら、資料を使って説明を行うと分かりやすくなる。

- ふり分ける時に各グループの希望をきいても、机の順番でふり分けてもどちらでもよい。まんべんなく選んでもらうため、グループ数が6を超える場合のみ重複OKとする。

40分
経過

60分
経過

70分
経過